



家庭でできる
被害軽減の工夫を
まとめました

家庭で役立つ防災

家庭で役立つ防災

目次

被害の可能性を知る	1	浸水直前の対策 ～床下収納からの浸水を防ぐ～	11
家を建てる際の浸水対策 ～高床式にする～	2	浸水直前の対策 ～家財の被害を防ぐ～	12
家を建てる際の浸水対策 ～地盤を高くする～	3	浸水直前の対策 ～浄水槽の被害を防ぐ～	13
家を建てる際の浸水対策 ～防水壁で家を囲む～	4	家を建てる際の地震対策 ～耐震化する～	14
家を建てる際の浸水対策 ～外壁を耐水化する～	5	地震に備えるための対策 ～ブロック塀の安全対策をする～	15
家を建てる際の浸水対策 ～設備機器を守る～	6	地震に備えるための対策 ～家具の転倒・窓ガラス等の飛散を防ぐ～	16
浸水に備えるための対策 ～家の周囲の安全確認・事前の対策～	7	地震に備えるための対策 ～安全な空間・通路を確保する～	17
浸水に備えるための対策 ～排水路の確保・土のうの準備～	8	地震に備えるための対策 ～家の周囲の安全確認・事前の対策～	18
浸水直前の対策 ～玄関からの浸水を防ぐ～	9	地震が起きた際に家を守るための対処 ～火の始末をする～	19
浸水直前の対策 ～下水の逆流を防ぐ～	10		

家を建てる際の浸水対策 ～高床式にする～

○柱等により床面を高い位置に設けるピロティ構造や、鉄筋コンクリート造の基礎を高くする構造により、想定される水位よりも床の位置を高くする。

ピロティ構造にする



資料／国土交通省
「適応策選択の考え方（洪水対策を例に）」

鉄筋コンクリート造の基礎を高くする



資料／岐阜県 水害に強いまちづくり検討会
「地域の自主努力による水害に強いまちづくりガイド」



資料／(財)日本建築防災協会
「家屋の浸水対策マニュアル わが家の大雨対策—安心な暮らしのために—」

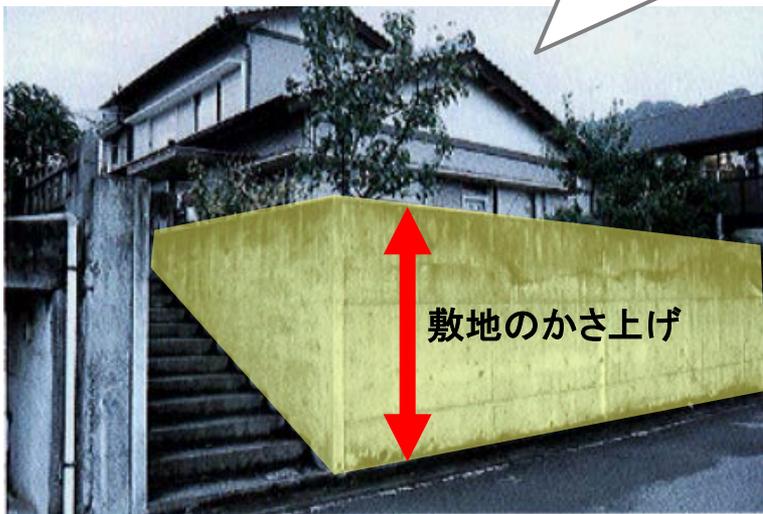
家を建てる際の浸水対策 ～地盤を高くする～

- 敷地全体に盛り土を行い、周辺よりも家の地盤を高くする。
- 必要に応じて、沈下または崩壊が生じないように締め固め、鉄筋コンクリートの擁壁を設ける。

盛り土をして敷地全体を高くする



庭などの屋外と、屋内の高さが変わらない利点がある。

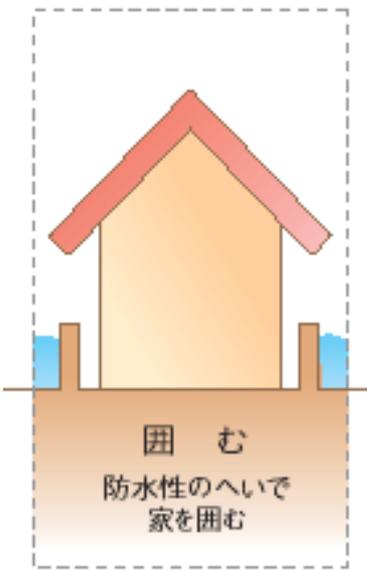


資料／(財)日本建築防災協会「家屋の浸水対策マニュアル わが家の大雨対策—安心な暮らしのために—」

家を建てる際の浸水対策 ～防水壁で家を囲む～

- 住宅の周囲を防水性のある塀で囲むことにより、敷地外からの浸水を防ぐ。
- 開口部は^{りっこう}陸間※により住居への浸水防止を図る。

敷地の周りを防水性の塀などで囲む



防水性の塀により浸水を防ぐ。



^{りっこう}開口部は陸間※により浸水を防ぐ。

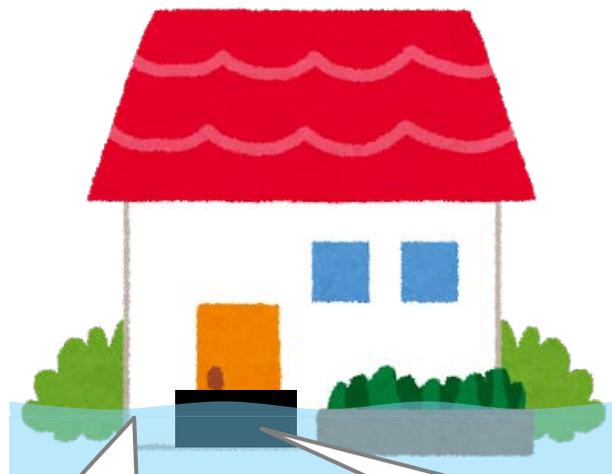
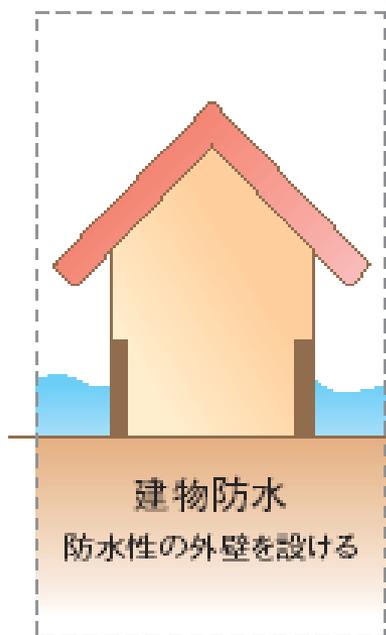
※陸間: 堤防の役割を果たす開閉可能な門扉。
個人住宅では塀の開口部における防水性の門扉を指す。

資料/世田谷区「集中豪雨に注意しましょう 各自でできる浸水対策」

家を建てる際の浸水対策 ～外壁を耐水化する～

- 建物自体を防水性のある建材などで囲むことで、建物への浸水被害を低減させる。
- 玄関等の出入り口にも止水板※を取り付ける等の耐水の工夫が必要。
- 木造住宅等自重の軽い建物等では、水位上昇により生じる浮力で浮き上がらないよう、基礎との接合を強化する必要がある。

建物等の外壁で浸水を防ぐ



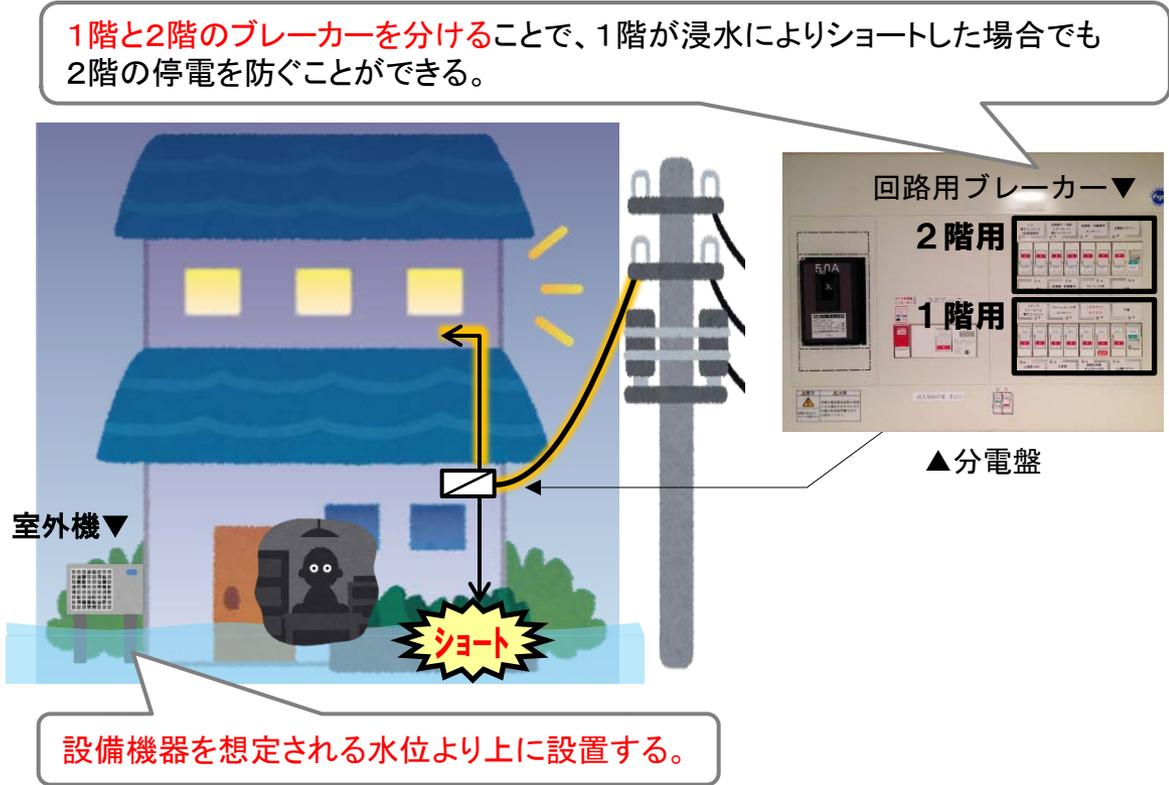
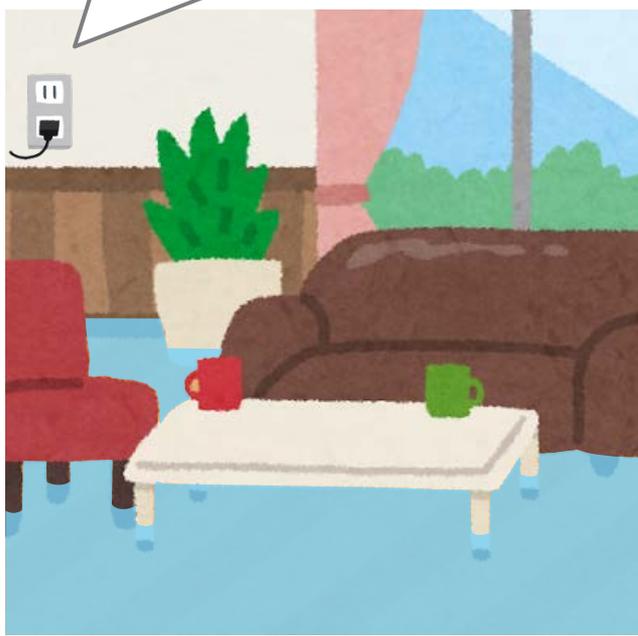
※止水板: 豪雨時や洪水時に水の侵入を防ぐため、玄関などに取り付ける板。

家を建てる際の浸水対策 ～設備機器を守る～

- コンセントを高い位置に設置する。
- 1階と2階のブレーカーを分けることで、2階の停電を防ぐ。
- エアコンの室外機や給湯器などを想定される水位より上に設置する。

設備機器を守る

コンセントを高い位置に設置する。



- 家の周囲に不良箇所がないかを台風や大雨の前に確認し、必要に応じて修理する。
- 強風により飛散する危険がある物がないかを確認し、あれば室内に移す。

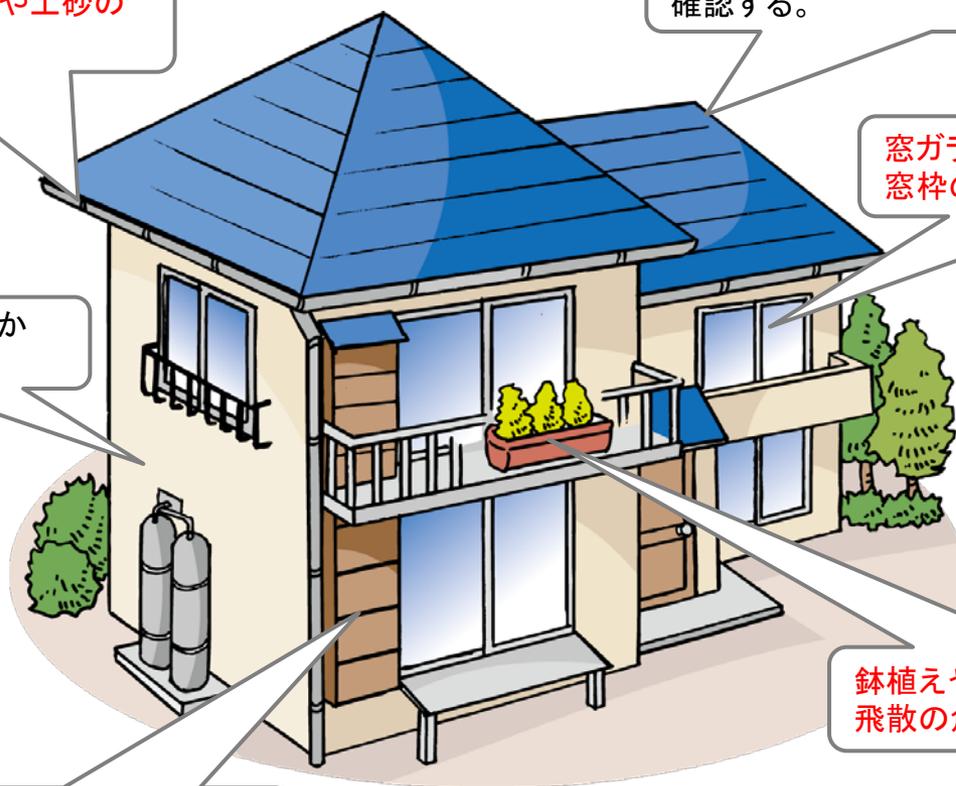
家の周囲の安全対策

雨どいに破損がないか、落ち葉や土砂の詰まりがないか確認する。

瓦やタンのひび・割れ・ずれ・はがれはないか確認する。

窓ガラスにひび割れ、窓枠のガタツキはないか確認する。

外壁に亀裂等はないか確認する。



鉢植えや物干し竿などの飛散の危険はないか確認する。

雨戸にガタツキやゆるみはないか確認する。

浸水に備えるための対策 ～排水路の確保・土のうの準備～

- 落葉やごみで雨水ますが塞がれていると、敷地や道路が冠水する恐れがあるため、雨水ますの点検や清掃を行う。
- 土のうにより家屋への浸水を軽減することができる。
- すぐに土のうを使えるよう、地域で準備するなどの工夫をする。

集中豪雨に備えて雨水ますを清掃・点検



落ち葉やごみを取り除き、**排水路を確保**する。

資料／東京都江戸川区「土のうによる水防対策」

土のうを使って浸水被害を最小限に



土のうにより家屋への浸水を防ぐ。

資料／東京都江戸川区「土のうによる水防対策」

江戸川区では、大雨による浸水被害を防ぐために、誰でも自由に土のうを取り出すことができる「土のうステーション」を設置している。



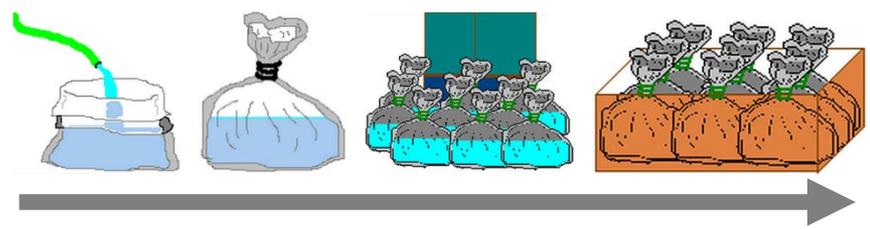
資料／東京都江戸川区「土のうによる水防対策」

浸水直前の対策 ～玄関からの浸水を防ぐ～

○土のうが無くて、ゴミ袋やプランター、ポリタンク、レジャーシートなどの身近なものを使って、家の浸水を防ぐことができる。

ゴミ袋で簡易水のうを作る

玄関等の前に隙間なく詰めると浸水を軽減できる。
ダンボール箱に入れると強度が増す。



資料／静岡県危機対策グループ「風水害対策」

水のうと板による簡易止水板

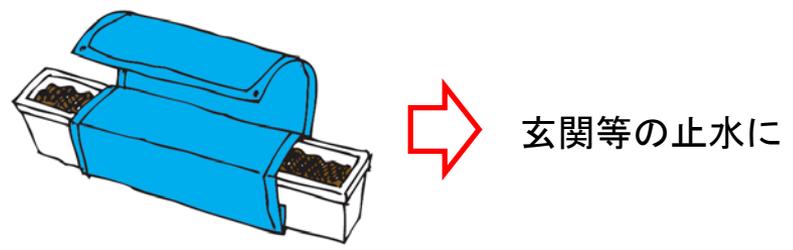
玄関等の出入り口を
長めの板などで塞ぎ、
水のうで固定すると
浸水を軽減できる。



資料／新潟県見附市「豪雨災害対応ガイドブック」

プランターとレジャーシートによる止水

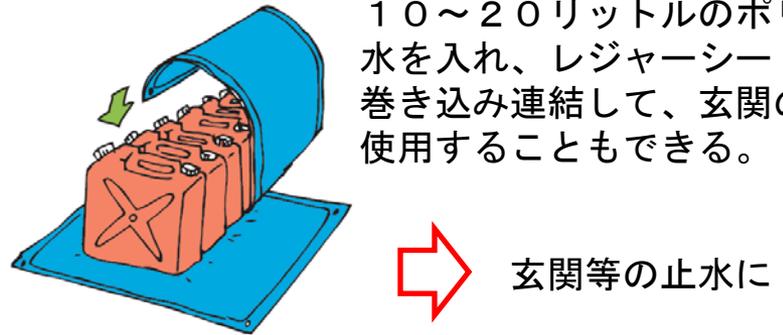
土を入れたプランターを、レジャーシートで
巻き込み、玄関の止水に使用することもできる。



資料／新潟県見附市「豪雨災害対応ガイドブック」

ポリタンクとレジャーシートによる止水

10～20リットルのポリタンクに
水を入れ、レジャーシートで
巻き込み連結して、玄関の止水に
使用することもできる。



資料／新潟県見附市「豪雨災害対応ガイドブック」

浸水直前の対策 ～下水の逆流を防ぐ～

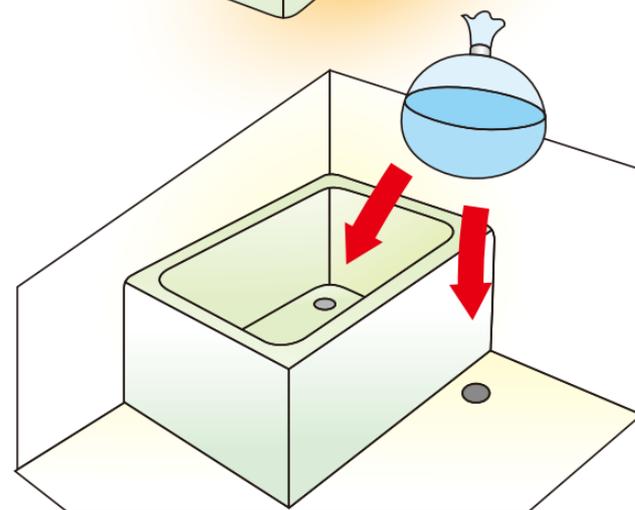
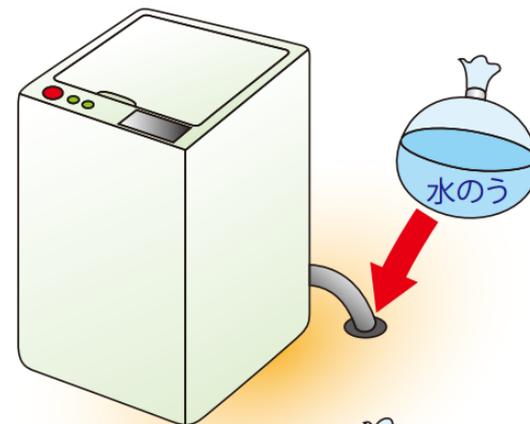
- 急激な水位の増加により下水が逆流し、トイレや風呂場、洗濯機の排水口などから水が噴き出ることがある。
- ビニール袋に水を入れた水のうを置くと、逆流を抑える効果がある。

水のうで逆流防止

急激な水位の増加により
下水が逆流することがある。



ビニール袋に水を入れた水のうを
置くと、逆流を抑える効果がある。



浸水直前の対策 ～床下収納からの浸水を防ぐ～

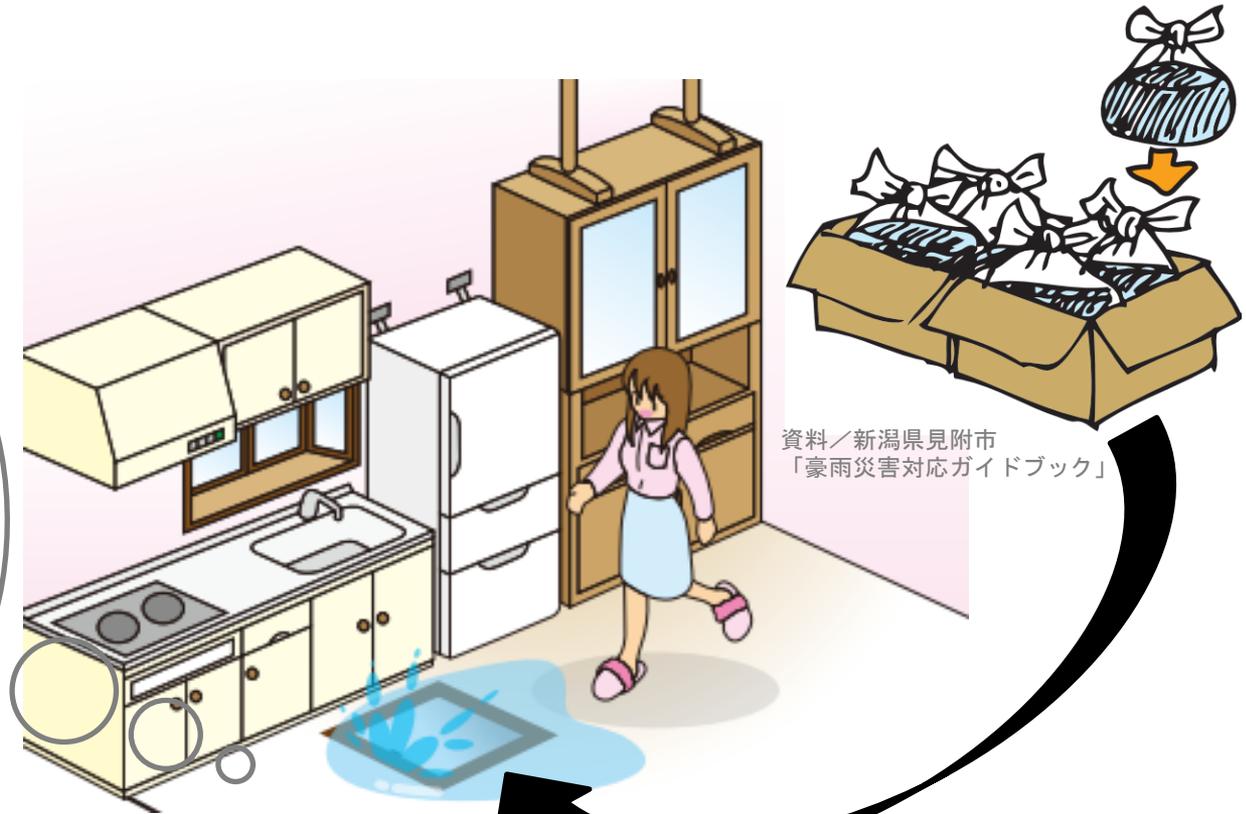
- 床下が浸水すると、床下収納のふたが開いて水が室内に入ることがある。
- 重いものや水のうなどで床下収納のふたを塞ぐと、浸水を軽減する効果がある。

水のうで浸水防止

床下が浸水すると床下収納のふたが開いて水が室内に入ることがある。



資料／新潟県見附市「豪雨災害対応ガイドブック」



資料／新潟県見附市「豪雨災害対応ガイドブック」

資料／朝霞市「内水(浸水)ハザードマップ」

重いものや水のうなどで床下収納のふたを塞ぐと、浸水を軽減する効果がある。

浸水直前の対策 ～家財の被害を防ぐ～

○水害による家財被害を軽減するため、家財を2階などの高い所へ上げる。

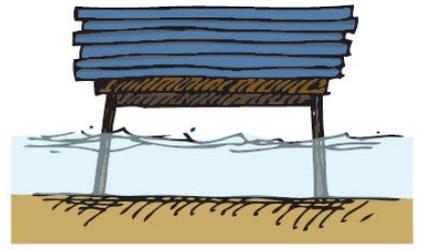
重要書類・高価な家電製品・衣類

重要書類、高価な家電製品、数日分の衣類は高い位置に移動する。



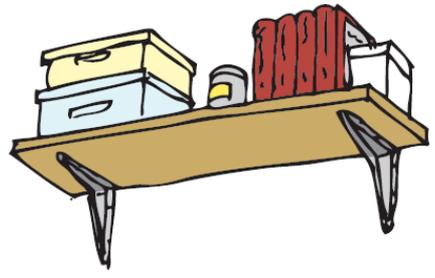
畳

畳を高い場所へ移動する。食卓の上に載せるだけでも、畳への浸水を防げる場合がある。



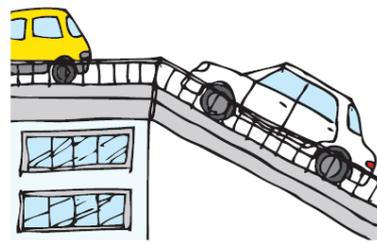
高い場所に棚を作っておく

家の様々な場所に厚板で丈夫な棚を作っておくと、いざという時に大事なものの浸水を避けることができる。



自家用車

自家用車を早めに安全な場所へ移動する。移動が困難な場合は、エンジン部分の浸水を避ける。



浸水直前の対策 ～浄水槽の被害を防ぐ～

- 浄化槽※の被害を低減するため、浄化槽ポンプの電源を切る。
(あらかじめ浄化槽ポンプを高い場所に設置することが望ましい。)
- 浄化槽に土砂や泥が入ると、浄化槽の管を塞いだり、浄化機能が低下し汚水のまま河川に放流してしまう恐れがあるため、ふたがしっかり閉まっているか確認する。

浄化槽ポンプの被害を防ぐ

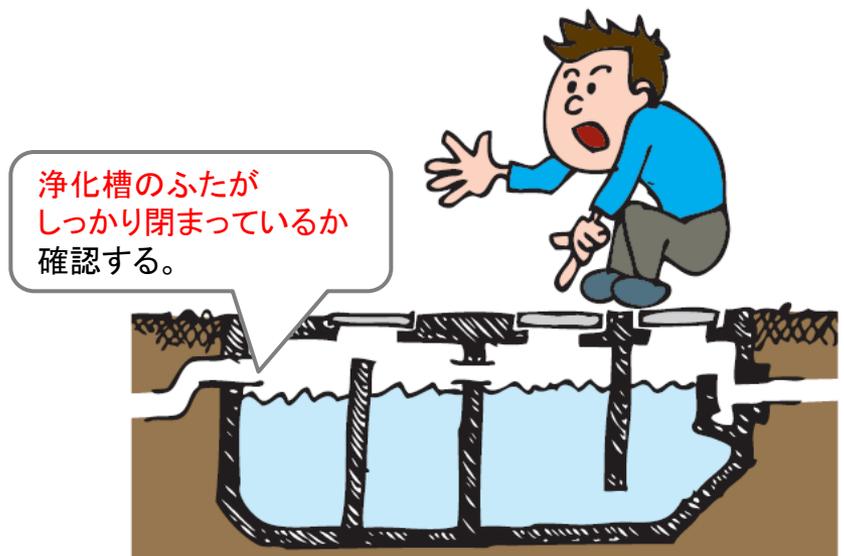
浄化槽ポンプが壊れると、浄化槽※に酸素を供給できなくなり、微生物が汚れを分解する機能が失われ、汚水のまま河川等に放流してしまう恐れがある。



資料／新潟県見附市「豪雨災害対応ガイドブック」

浄化槽への土砂や泥の浸入を防ぐ

土砂が入ると管が詰まって家から排水できなくなる可能性がある。



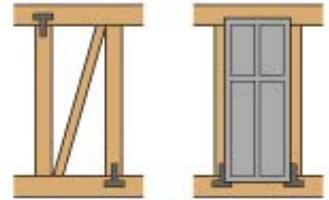
※浄化槽：便所と連結してし尿等を処理し、公共下水道以外に放流するための設備又は施設。

資料／新潟県見附市「豪雨災害対応ガイドブック」

○倒壊による圧死や延焼を防ぎ、命の安全を確保するために建物を耐震化する。

建物の耐震化

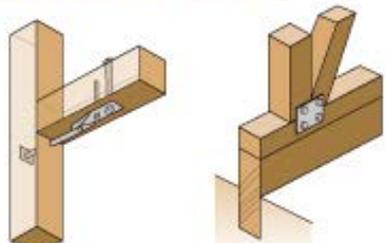
強い壁をバランスよく増やす



筋交い設置 構造用合板設置

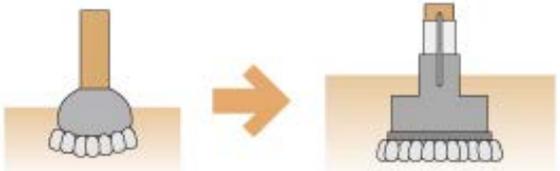
強い壁を1、2階同じ位置、建物の隅に配置すると効果的です。

柱・土台・梁・筋かいの接合部分に金物を使用



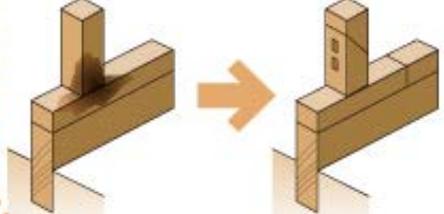
羽子板ボルト設置 筋かいプレート設置

玉石基礎の場合、鉄筋コンクリート造の布基礎に替えて、土台をアンカーボルトで締め付ける



玉石基礎 鉄筋コンクリート造布基礎

腐ったり、シロアリによる被害のある部分を取り替える



※建築後の対応

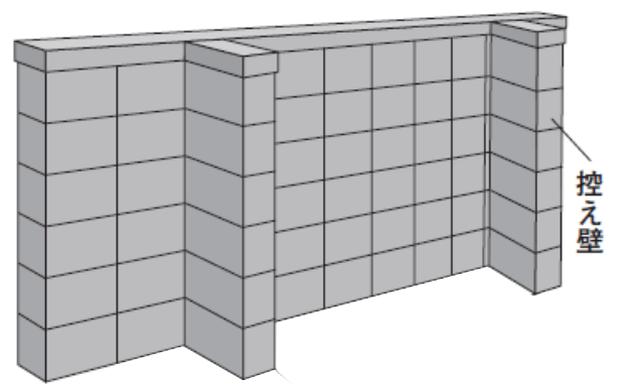
※国や自治体が補助制度や優遇税制により耐震化を支援している場合は、支援制度を活用して耐震化を行うことができる。

資料／内閣府「住宅・建築物の耐震化のススメ」

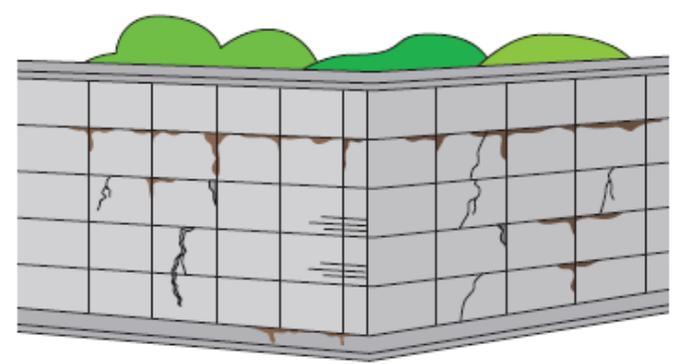
○ブロック塀の倒壊を防ぐための安全対策をする。

ブロック塀の安全対策

控え壁はあるか



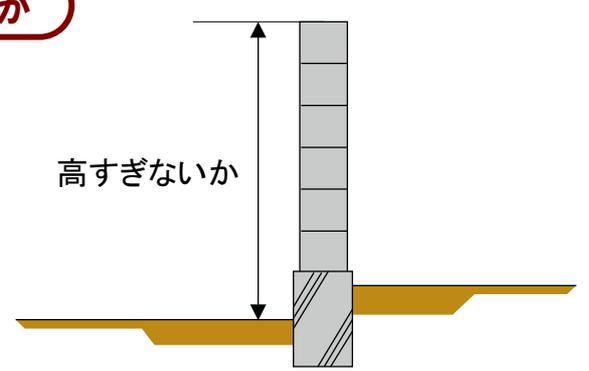
傾き・ひび割れはないか



基礎の根入れは十分あるか



高すぎないか

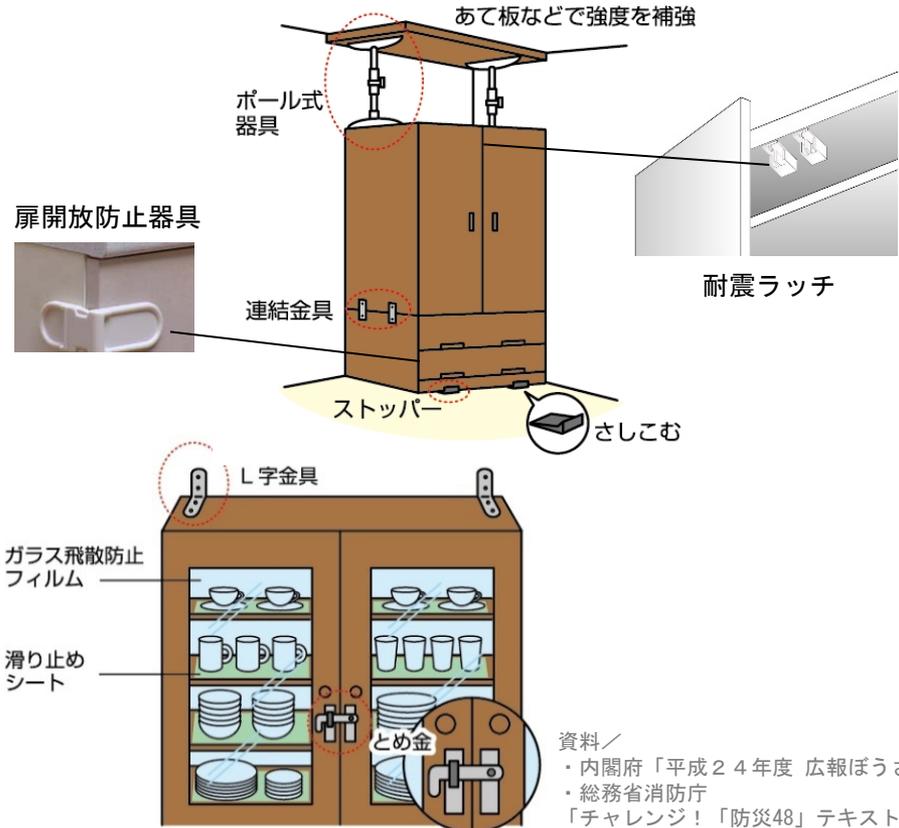


地震に備えるための対策 ～家具の転倒・窓ガラス等の飛散を防ぐ～

○家具の転倒等による死傷や逃げ遅れを防ぐため、家具を固定する。
○怪我の防止や避難の妨げにならないよう、ガラス窓や扉には飛散防止フィルムを貼る。

タンス・食器棚

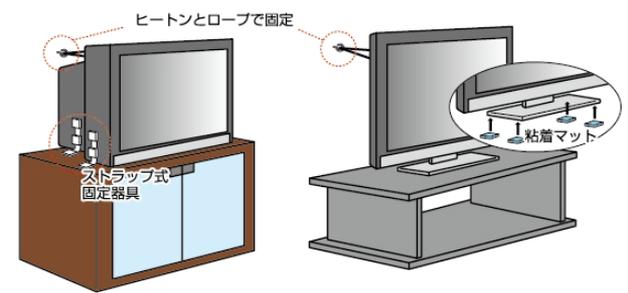
タンスや食器棚を固定し、耐震ラッチや扉開放防止器具、とめ金や滑り止めシート等で中身の飛び出しを防ぐ。



資料／
・内閣府「平成24年度 広報ぼうさい」
・総務省消防庁「チャレンジ! 「防災48」テキスト」

テレビ・パソコン

粘着マットや固定器具等で、テレビをテレビ台と壁に固定する。



資料／内閣府「平成24年度 広報ぼうさい」

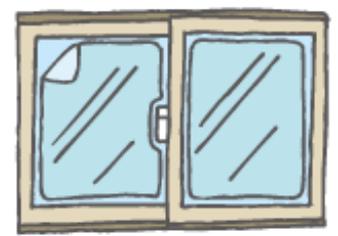
窓ガラス

ガラスの窓や扉には飛散防止フィルムを貼る。



資料／東京消防庁「地震その時10のポイント」

ガラス飛散防止フィルム



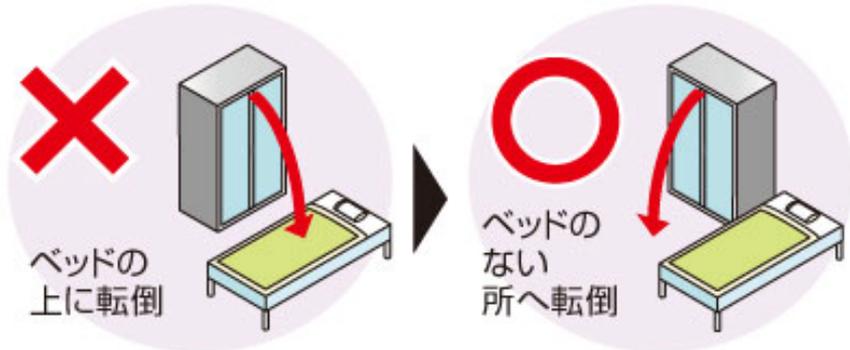
資料／市川市「わが家の防災対策」

地震に備えるための対策 ～安全な空間・通路を確保する～

○揺れが大きくなると、家具の固定器具では転倒を防止できないケースがある。
○万が一に備えて、寝室や出入口等の家具のレイアウトを工夫し、安全な空間・通路を確保する。

安全な空間の確保

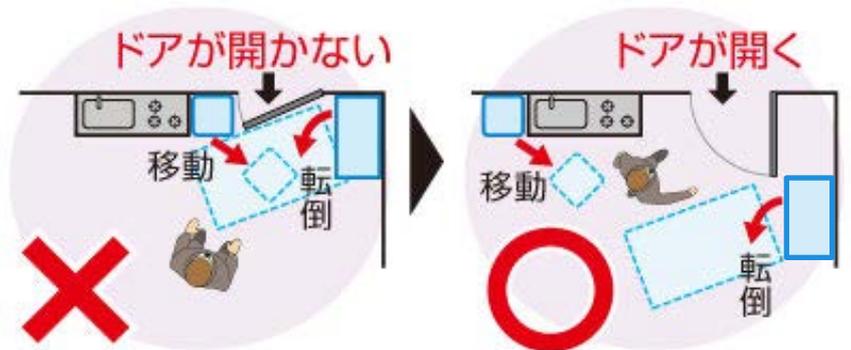
座る場所や寝る場所の付近に、家具類が倒れないように配置を工夫する。



資料／東京消防庁「広報テーマ1地震から身を守るために」

安全な通路の確保

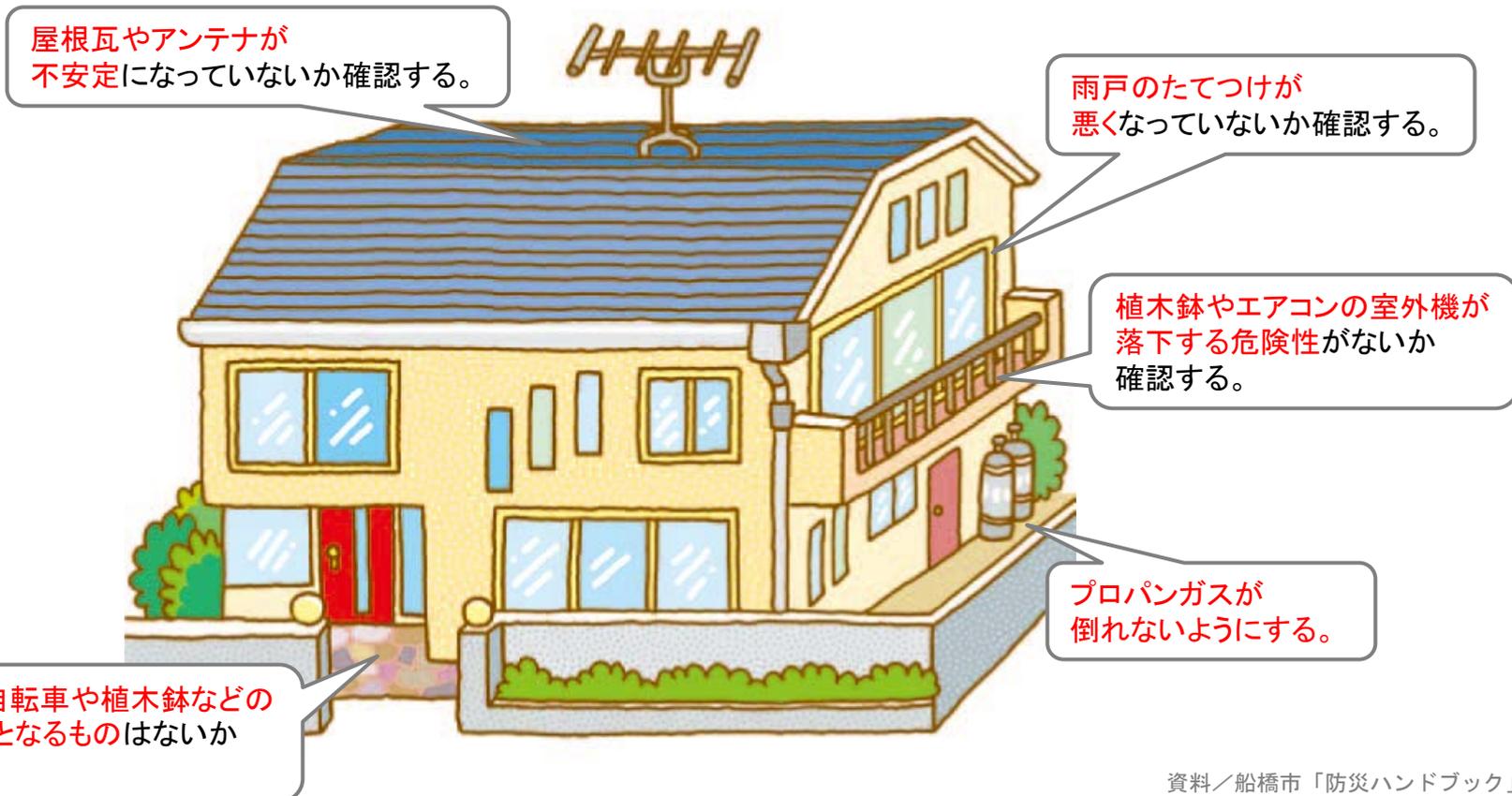
いざというとき安全に避難できるように、玄関や通路に倒れやすいものを置かない。



資料／東京消防庁「広報テーマ1地震から身を守るために」

- 家の周囲に不良箇所がないか日頃から確認し、必要に応じて修理する。
- 落下や転倒する危険がある物がないかを確認し、あれば固定する。

家の周囲の安全対策



資料／船橋市「防災ハンドブック」

地震が起きた際に家を守るための対処 ～火の始末をする～

- 火の始末をする。ただし、揺れているときは鍋の中のお湯や高温の油で火傷などの怪我をする危険があるので、揺れがおさまってからにする。
- 万が一出火した時は、落ちついて消火する。

火の始末をする



資料／東京消防庁「地震その時10のポイント」

災害被害軽減の工夫

		風水害の備え	地震の備え
家を建てる時		<ul style="list-style-type: none"> ・被害の可能性を知る ・高床式にする ・地盤を高くする ・防水壁で家を囲む ・外壁を耐水化する ・設備機器を守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震化する
家を建てた後	被災前	<ul style="list-style-type: none"> ・家の周囲の安全確認・事前の対策 ・排水路の確保・土のうの準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック塀の安全対策をする ・家具の転倒・窓ガラス等の飛散を防ぐ ・安全な空間・通路を確保する ・家の周囲の安全確認・事前の対策
	被災時	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関からの浸水を防ぐ ・下水の逆流を防ぐ ・床下収納からの浸水を防ぐ ・家財の被害を防ぐ ・浄水槽の被害を防ぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ・火の始末をする